

固有種溢れる豊かな高山植物群落

やっがたけ
八ヶ岳
生物群集保護林

設定目的

八ヶ岳連峰の硫黄岳から赤岳に至る稜線部には、ヤツガタケキバナシヤクナゲやヤツガタケキンポウゲなど八ヶ岳固有種を含む豊かな高山植物群落広がっています。特に稜線の東側斜面は「八ヶ岳キバナシヤクナゲ自生地」として国の天然記念物に指定されています。これらの貴重な高山植物群落と八ヶ岳一帯の森林生態系の保護・管理を一体的に行っています。

地況・林況

「八ヶ岳」とは特定の一山を指して呼ぶ名前ではなく、山梨・長野両県境にまたがる山々の総称です。

八ヶ岳は独立した連峰であるため、この地域でのみ進化した草本や樹木が見られます。草本ではヤツガタケキンポウゲ、ヤツガタケキスミレ、ヤツガタケタンポポ、ヤツタカネアザミ、ヤツガタケシノブなど、樹木ではヤツガタケキバナシヤクナゲ、ヤツガタケトウヒなど、八ヶ岳の名が付くものが数多く生育しています。

また、ベニヒカゲやヤツタカネなど希少な高山蝶も生息しています。

ヤツガタケキンポウゲ

所在地
長野県南佐久郡南牧村、茅野市



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載していません。

赤岳から望む阿弥陀岳とミヤマダイコンソウ

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、QRコードを読み込んでください。

シリーズ

中部の保護林(第19回)